

1. 夏合宿報告

夏合宿を終えて

監督 萩井好次 (H10年卒)



8月4日から24日までの21日間、今年も北海道北見市にあるモイワスポーツワールドで夏合宿を行いました。昨年のような台風の影響もなく、最高の環境で充実した時間を送ることができました。早朝練習、午前練習、午後練習、就寝前のコンディショニングと1日に4回のセッションを繰り返した合宿は選手にとってとてもハードであると同時にとても実りの多いものになりました。長かった合宿を3部に分けて振り返ります。

1) 前半：FW強化

春シーズンの課題を克服するべくFWが先に北見に入り4日～8日までの5日間、徹底的にスクラムやモールの強化に取り組みました。田辺にはない斜面を活用できるということもあり、選手がこれまで感じたことのない高い負荷で練習を積み上げることができました。上回生に怪我人が多かったこともあり、下級生中心に練習する形になりましたが、今後の同志社の土台に繋がる良い時間を過ごせたと感じています。FW強化に終わりはありません。田辺に帰ってからも継続して取り組むことで同志社の強みに仕上げていきます。

2) 中盤：コンタクト強化

9日～14日。ボックスも合流し、チーム全体で特に春から継続しているコンタクトにフォーカスして強化しました。こちらも田辺では味わえない天然芝ということもあり今まで以上に強度の高い練習に取り組むことができました。強化の一環として行った山梨学院大学、法政大学との試合でも、FWやコンタクトで一定の成果を得ることができ良い流れで合宿後半に向かうことになりました。

3) 後半：チーム強化

15日の中日を挟み、16日から最終日までは20日の東海大学、23日の筑波大学との試合をターゲットにチーム強化に取り組みました。結果はいずれも大敗ということで課題を多く残すことになりましたが、この時期に関東の強豪と戦えたことは今後の大きな糧になりました。スクラムやコンタクトなど、個々でやってきたことがどれくらい通用するかに拘るあまり全体のバランスを崩し結果に繋がりませんでした。通用する部分も多くやってきたことに間違いはなかったと確信しています。

怪我で離脱していた上回生やU20のメンバーも徐々に戻り、地道に鍛えあげてきたメンバーと合流します。春から地道に取り組んできたことをこの9月に改めてチームとして結実させます。同志社だから勝てるという試合は一試合もありません。一戦一戦が勝負です。全員で準備し、全員で挑み、全員で勝利し、全員で喜び、全員で成長する。この繰り返しで頂点を目指します。学生の成長し続ける姿を楽しみにしててください。

まずは関西リーグ、野中組に変わらぬご支援とご声援を宜しくお願い致します。